

VI 資 料

- 1 活用に向けた補助資料
- 2 札幌市の子どもの学力の現状と今後の取組について
- 3 学習などについてのアンケート（共通指標）
- 4 各学校における「学ぶ力」育成プログラム（様式）

平成25年度 全国学力・学習状況調査 実施報告書 〈活用に向けた補助資料〉

◆全国学力・学習状況調査の結果を詳細に分析し、特に課題があると考えられる問題を例示して、今後の指導方法等の工夫改善に向けて大切にしたいことを示しました。

※課題については、全国と同様に平均正答率が低い問題、全国の平均正答率と比較して低い問題、無解答率が高い問題から特徴的なものを抽出して掲載しています。

※詳細は、実施報告書本文を確認してください。

札幌市教育委員会指導室
平成25年12月20日

〔国語A:主として知識〕について

- 「漢字を書くこと」について、継続的に課題
⇒全国の平均正答率を下回る状況。
無解答率※が全国より高い状況。

＜A問題から＞

(1) 魚を やく。
(2) バスが ていしや した。
(3) 委員会を もう ける。

※無解答率
(1):8.1%、(2):15.5%、(3):33.6%

改善に向けて大切にしたいこと

- ◆習得した漢字を文や文章の中で適切に使うよう指導すること。
- ◆漢字の使用について、日常的に確認、評価すること。
- ◆国語辞典や漢字辞典を利用して調べる習慣づくり。

〔国語A:主として知識〕について

- 「文の定義を理解し、文と文の意味のつながりを考えながら、接続語を使って内容を分けて書くこと」に課題
⇒全国と同様、平均正答率が低く、無解答率が高い状況。

五年生は、　　（中略）　　
。だから、　　
へあげたいと思った。

改善に向けて大切にしたいこと

- ◆文の定義を確実に指導し、主語と述語の関係などに着目して、文の構成を整えること。
- ◆2文を1文に書き換えたり、1文を複数の文に分けて書いたりするなど、言語を操作すること。

〔文章の一部〕
放送委員会の役員を決める話し合いをした。ぼくは、委員長を任せられることになった。新しく委員になった五年生は、放送機器の使い方が分からなくて不安そうにしていたので、ぼくは、これまでの経験を生かして、いろいろなことを教えてあげたいと思った。

※解答は、解答用紙に書きましょう。

一 〔文章の一部〕の中には、いくつかの文があります。それぞれの文のはじめの五文字を丸で囲みましょう。なお、読点（、）も字数にふくみます。

二 〔文章の一部〕の中の――部を、主語に注目して二つの内容に分けて書き直します。つなぎ言葉には、「だから」を使います。

(1) 一つ目の文の終わりの七文字と、二つ目の文の「だから」に続く七文字を書きましよう。なお、読点（、）も字数にふくみます。

〔国語B:主として活用〕について

- 「目的や意図に応じ、必要な内容を適切に引用したり複数の内容を関係付けたりしながら、自分の考えを書くこと」に課題
- ⇒全国と同様、平均正答率が低く、無解答率が高い状況。

<B問題から>

推薦文を読み、推薦している対象や理由を捉える問題

<p>○ (花田さんの読書経験から)</p> <p>○ 物語の最後の部分が気になり、物語の全体をくり返し読み、登場人物の心の変化をたどってみたいくなったから。</p>	<p>イ</p>
<p>○ (作品の持ちようの面から)</p> <p>○ 物語の最後の部分に深い味わいがあるから。</p>	<p>すすめる理由</p>

示された「推薦文」から必要な文を引用して、薦める理由を記述する問題。

〔花田さんが書いたすいせん文〕

みなさんは、物語をくり返し読みだした経験はありますか。そのような読み方をしたことがない人に、新美南吉が書いた「ごんぎつね」をおすすめします。

この物語の最後の部分は、次のように書かれています。「兵十は、火なわ銃をばたりと、とり落とししました。青いけむりが、まだ筒口からはそく出ていました。」わたしは、この部分が気になり、物語の全体をくり返し読み、登場人物の心の変化をたどってみたいになりました。

「ごんぎつね」には、ごんと兵十が登場します。ごんが、兵十のうなぎを取ってしまうといういたずらが事件の起こりです。ごんは、そのことを深く反省し、おわびにくりや松たけを兵十のうちに持っていくようになります。しかし兵十は、ごんがしたことだとは気づかず、最後に火なわ銃でごんをうってしまいます。兵十は、そこで初めてごんの行動に気づくのです。ごんと兵十の心のすれちがいにせつない気持ちになります。

わたしは、この物語がわたしたしは、この物語が返しました。そのことで、物語の最後の部分だと思います。

示された「推薦文」から必要な文を引用して、薦める理由を記述する問題。

続くのか想像しながら、最後の部分を何度も読みこめられた意味を少し理解できたような気があるこの物語を、みなさんにもぜひ読んでほしい

改善に向けて大切にしたいこと

- ◆多様な読み方(一つの作品を精読や再読/複数の作品を並行して読むことなど)を経験すること。
- ◆推薦することなどの目的を持って文章を読み、目的のために必要な文や事実を引用して、分かりやすく自分の考えを書くこと。

[算数A:主として知識]について

○「計算すること」について、継続的に課題
⇒平均正答率は80%を超えるものの、
全国の平均正答率を下回る状況。

○「概数の処理」や「面積の求め方」に課題
⇒平均正答率が高いものの、
全国の平均正答率を下回る状況。

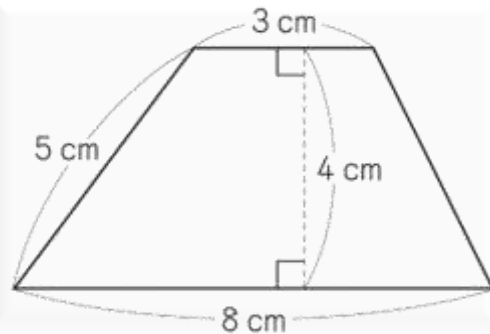
○「割合の意味を理解すること」に課題
⇒平均正答率が低い。
およそ半数の児童が誤答。

<A問題から>

(3) 9.3×0.8

(7) $\frac{2}{9} \times 4$

ししごにゅう
四捨五入して一万の位までのがい数にしたとき、20000になる整数を、
下の **1** から **5** までの中からすべて選んで、その番号を書きましょう。
1 14500 2 15000 3 19500 4 24999 5 25000



すわっている人数とシートの面積

	人数(人)	面積(m ²)
A	12	6
B	8	5

A $12 \div 6 = 2$
B $8 \div 5 = 1.6$

- 1 m²あたりの人数は2人と1.6人なので、Aのほうがこんでいる。
- 1 m²あたりの人数は2人と1.6人なので、Bのほうがこんでいる。
- 1人あたりの面積は2m²と1.6m²なので、Aのほうがこんでいる。
- 1人あたりの面積は2m²と1.6m²なので、Bのほうがこんでいる。

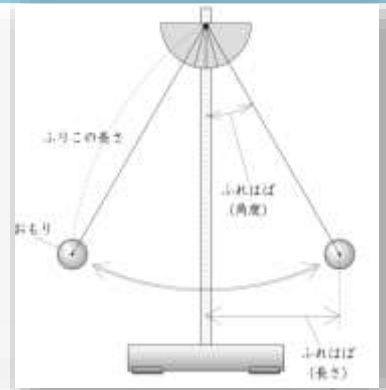
改善に向けて大切にしたいこと

- ◆計算結果を見積もりを行い、計算結果の確認に生かす習慣や技能を高めることや、確実に手続きを習熟すること。
- ◆「概数」、「面積」、「割合」などにおける数処理、計算において、問題場面や解決過程を図に表し、式と図、計算結果と問題場面を関連付けて、式や答えの意味を考えること。

〔算数B:主として活用〕について

- 「示された分割の仕方を解釈し、面積が等しくなることを言葉と数を用いて記述すること」に課題
 - 「二つの数量の関係が比例の関係でないことを記述すること」に課題
 - 「単位量当たりの大きさなどに着目して、二つの数量の関係の求め方を記述できること」に課題
 - 「割合が同じで基準量が増えているときの比較量の大小を判断し、その理由を記述すること」に課題
- ⇒全国と同様に、平均正答率が低く、無解答率が高い状況。

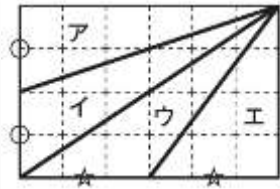
<B問題から>



実験3の結果

ふりこの長さ (cm)	25	50	75	100
10往復する時間 (秒)	10	14	17	20

「ふりこの長さを2倍に変えたとき、10往復する時間は2倍になっていない」ことを、上の表の中の数と言葉を使って書きましょう。



三角形ウとエは、☆の部分を底辺とすると、どちらも底辺が3cm、高さが4cmです。
だから、三角形ウとエの面積は等しくなります。

三角形アとイの面積が等しいことを、言葉と数を使って書きましょう。

あるサッカー場の試合数と観客数

	試合数 (試合)	観客数の合計 (人)	1試合あたりの観客数 (人)
ワールドカップ前	2	約 2200	約 1100
ワールドカップ後	3	約 33000	

ワールドカップ後の1試合あたりの観客数は、ワールドカップ前の1試合あたりの観客数の約何倍になっていますか。求め方を式や言葉を使って書きましょう。また、答えも書きましょう。

改善に向けて大切にしたいこと

- ◆数量の関係を表にまとめたり、表から規則性を読み取ったりすることや、見出した規則性がいつでも成り立っているかを表を用いて説明すること。
- ◆一人一人の児童が考えた説明などの表現について、妥当で的確なものに高めていくこと。
- ◆問題解決のために必要な計算などについて、あらかじめ見通しを立てることや、問題に当てはめてみて、その妥当性を確認すること。

〔国語A:主として知識〕について

- 「文脈に即して漢字を正しく書くこと」「語句の意味を理解し、文脈の中で適切に使うこと」について、一部に課題
⇒全国と同様、平均正答率が低い状況。

＜A問題から＞

大きなキボウをもつ。
おやつをキントウに分け合う。
着物に合わせてオビを選ぶ。

※設問2、3は、無解答率が1割を超えている。

改善に向けて大切にしたいこと

- ◆漢字について、文脈に即して使えることや、漢字を使う機会を増やすこと。
- ◆語句の辞書的な意味を基にして、話や文脈の中での意味を捉えること。

今年の夏の暑さには（1）平行 2 平衡 3 並行 4 閉口）した。
友達に将来の（1）抱負 2 初心 3 意志 4 感想）を話す。

〔国語B:主として活用〕について

- 「課題を決め、それに応じた情報の収集方法を考えること」に課題
⇒全国と同様、平均正答率が低い状況。
- 「根拠を明確にして自分の考えを具体的に書くこと」に課題
⇒全国と同様、無解答率が1割を超える状況。

＜B問題から＞

課題を決め、それに応じた情報の収集情報を考える問題

改善に向けて大切にしたいこと

- ◆文書を読んで理解したことから、新たな課題を見出すことや、ものの見方や考え方を広げること、また、課題解決に向け、情報収集の手段を的確に活用すること。
- ◆文章を読んで、根拠として本文を引用して、自分の考えを述べたり、書いたりすること。

ア この文章を読んで、「かるた」について分かったことを一つ書きなさい。
イ アについて、さらに調べたいことを一つ書きなさい。
ウ イを調べる手段を、次の①から③までの中から一つ選び（どの〔調べる手段〕を選んででもかまいません。）、その手段を用いて（どのようにして情報を集めるのか）を二十文字以上、五十文字以内で書きなさい。
なお、「③ その他」を選んだ場合は、あなたの考える調べる手段を解答用紙の（ ）に書きなさい。

① 皆さんは、「犬も歩けば棒にあたる」、「花より団子」、「良薬は口に苦し」といったことわざは「いろはかるた」に取り上げられているものです。「いろはかるた」は、いろはにほへと ちりぬるを わかよたれそ つねならむ うゐのおくやま けふこえて の四十七字に「京」の字を加えた四十八字を最初の字にしたことわざからできています。四十

② 江戸時代から遊び道具の一つとして親しまれてきた「いろはかるた」は、「いろはかるた」に全て盛り込まれているのかもしれないです。子どもにとっては少々難しいことわざでも、大人になりやすくなるのが「いろはかるた」と一口に言っても、種類ではあざでも、「犬も歩けば棒にあたる」、「石は回れ」など、時代や地域によって様々なことわざが用いられてきました。

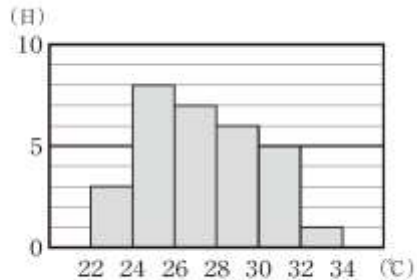
③ 「犬も歩けば棒にあたる」ということわざは、犬が歩けば必ず棒にあたるといふことわざです。これは、世の中は必ずしも自分が思い通りにいかないことがあることを教訓として示しています。

〔数学A:主として知識〕について

- 「数量の関係を文字式で表すこと」に課題
- 「与えられたヒストグラムについて、ある階級の相対度数を求めること」に課題
⇒全国と同様に、平均正答率が低く、無解答率が高い状況。

<A問題から>

最高気温の分布



22℃以上24℃未満の階級の相対度数を求めなさい。

(3) a mの重さが b gの針金があります。この針金の1 mの重さは何gですか。 a 、 b を用いた式で表しなさい。

改善に向けて大切にしたいこと

- ◆文字式について、文字を具体的な数に置き換えたり、言葉の式で意味を確認したりして理解を深めること。
- ◆資料の傾向を読み取る活動を通じて、相対度数の必要性和意味についての理解を深めること。

〔数学B:主として活用〕について

- 「事象を数学的に表現したり、数学的に表現された結果を事象に即して解釈したりすることを通して、事柄が成り立つ理由を筋道立てて説明すること」に課題
- 「示された方針に基づいて証明することや、与えられた条件を整理したり、着目すべき性質を見出したりするなどして、証明の新たな方針を立てること」に課題
- 「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することや、言葉で表現された事柄の数学的な意味を的確に捉え、他の事象との関係を考えること」に課題
- 「資料の傾向を的確に捉え、事柄の特徴を数学的に説明すること」に課題
⇒全国と同様に、平均正答率が低く、無解答率が高い状況。

<B問題から>

図3



図3のように囲み方を変えてみると、基石全部の個数は、 $3(n-2)+3$ という式で求めることができます。基石全部の個数を求める式が $3(n-2)+3$ になる理由について、下の説明を完成しなさい。

したがって、基石全部の個数を求める式は、 $3(n-2)+3$ になる。

改善に向けて大切にしたいこと

- ◆事象を数学的に表現したり、数学的に表現された結果を事象に即して解釈したりすることを通して、事柄が成り立つ理由を筋道立てて説明すること。
- ◆事象を多面的に見る活動を充実すること。

札幌市の子どもの学力の現状と今後の取組について

平成25年10月 9日 札幌市教育委員会

■札幌市が目指す学力…「学ぶ力」

○札幌市の教育においては、自ら学ぼうとする「**学ぶ意欲**」や、思考力・判断力・表現力等の「**活かす力**」、基礎的・基本的な知識や技能などの「**学んだ力**」の3つの要素で構成される「**学ぶ力**」をバランスよくはぐくむことを目指して教育活動等の充実に努めてきております。

■札幌市の成果と課題

○教育委員会では、子どもの現状を把握し、教育活動等の改善を図るため、このたび、平成25年度全国学力・学習状況調査（平成25年4月実施）における札幌市の調査結果を分析し、課題や改善の方向性を明らかにするとともに、国際的な調査や札幌市が独自に行ってきた学力調査などの結果も踏まえて、「学ぶ力」の札幌市の現状を分析し、「**札幌の成果と課題**」としてまとめました。（本資料P1）

■札幌市の今後の取組

○また、「札幌の成果と課題」を踏まえ、今後、教育委員会として推進する取組を「**さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プラン**」にとりまとめました。（本資料P2）

< 本資料の概要 >

資料1

P1

子どもの学力の現状と札幌の成果と課題

日本全体の状況

■国際比較による日本の子どもの学力■

- ◆習熟度の高い児童生徒の割合は増加したが、他の上位国・地域と比べると、その割合は低い。
- ◆学習意欲等に肯定的な回答をした児童生徒の割合は増加したが、国際平均よりも低い。
- ◆必要な情報を見付け出し取り出すことは得意だが、それらの関係性を理解して解釈したり、自らの知識や経験と結び付けたりすることがやや苦手。

札幌市全体の状況

■札幌の子どもの学力■

- ◆知識・技能の定着⇒小学校国語の（漢字を書くことなど）、算数（小数の計算など）に継続的な課題。
- ◆活用⇒中学校の教科領域等で全国平均正答率と比べて「上回る」「ほぼ同程度だが上回る」傾向。一方、「事実を基にして自分の考えをもつこと」などが小・中ともに課題。

■札幌の子どもの学習習慣と学習意欲■

- ◆家庭での学習習慣や、学習意欲に課題。

札幌の成果と課題

- 読書への意欲向上に成果。一方、学習習慣の確立や、自ら学ぼうとする学習意欲の向上に課題。
- 思考力・判断力・表現力等に、問題解決的な学習等の成果も見られるが、知識・技能ほど十分に身に付いているとは言えない。
- 知識・技能は、概ね身に付いているが、小学校の教科領域の一部に継続的な課題も見られる。

P2

「さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プラン」

- ◆分かる・できる・楽しい「授業づくり」の充実
- ◆学校、家庭が一体となった「習慣づくり」「環境づくり」の推進
- ◆子どもの自己評価を生かした「学ぶ力」の評価と指導の改善

■国際比較による日本の子どもの学力■

TIMSS
国際数学・理科
教育動向調査

2011年調査 小4、中2が対象
小学校・算5位、理4位(50か国中)
中学校・数5位、理4位(42か国中)

小4、中2が対象
算数・数学、理科の
知識・技能の習得状況

「習熟度の高い児童生徒の割合は、前回調査に比べ増加しているが、他の上位国・地域と比べると、その割合は低くなっている。」

「学習に対する意欲等について、前回調査に比べ肯定的な回答をした児童生徒の割合は増加。国際平均よりも低い。」

(文部科学省資料より抜粋)

PISA
OECD生徒の
学習到達度調査

- 数学的リテラシー
数学的根拠に基づいた判断・能力
- 科学的リテラシー
科学的知識を活用し、課題を明確にして結論を導き出す能力
- 読解力
テキストを理解、利用し、考える力

・習熟度レベル1~4(低~高)で見ると、前回調査(2006年)と比べてレベル2以下の生徒の割合が減少し、レベル4以上の生徒の割合が増加。
・トップレベルの国々と比べると、成績下位層が多い。

数学的リテラシー
2006年10位(57か国・地域中) 2009年 9位(65か国・地域中)
科学的リテラシー
2006年 6位(57か国・地域中) 2009年 5位(65か国・地域中)
読解力
2006年15位(57か国・地域中) 2009年 8位(65か国・地域中)

「必要な情報を見付け出し取り出すことは得意だが、それらの関係性を理解して解釈したり、自らの知識や経験と結び付けたりすることがやや苦手。」
(文部科学省資料より抜粋)

■札幌の子どもの学力■

平成25年度全国学力・学習状況調査

小6、中3が対象(H25年4月実施)
国語、算数・数学の
「知識に関する問題(A問題)」
「活用に関する問題(B問題)」

札幌市学習実現状況調査

小5、中2が対象(H24年2月実施)
社会・理科・英語の知識・理解について「基礎に関する」と「応用に関する問題」

【小学校】 ⇒国語、算数の問題A、Bいずれも、
全国平均正答率と「ほぼ同程度」
【中学校】 ⇒国語、数学の問題A、Bいずれも、
全国平均正答率と「ほぼ同程度」
※「ほぼ同程度」は、全国の平均正答率と比較して±3ポイントの範囲内。

⇒小中学校ともに、
期待される正答率(設定通過率)と同程度

- ◆ **知識・技能の定着**については、小学校国語(漢字を書くことなど)、算数(小数の計算など)に**継続的な課題**(一部の問題で、全国平均正答率を下回る状況)
- ◆ **「活用」**に関しては、中学校で全国平均正答率を上回る問題が見られている。一方、「**与えられた条件を基に筋道を立てて考え、記述すること**」や「**事実を基にして自分の考えをもつこと**」などの問題で、全国と同様に誤答率・無解答率が高い状況が見られ、**小・中学校ともに課題**。

※「下回る」は、全国の平均正答率と比較して3.1ポイント以上、下回る状況。
※「上回る」は、全国の平均正答率と比較して3.1ポイント以上、上回る状況。

■札幌の子どもの学習習慣と学習意欲■

平成25年度全国学力・学習状況調査

■ **読書が好き**な子どもの割合が小・中学校ともに増加し、**全国平均より高い状況**。※()内は全国平均

H19年度:小72.0%(71.3%) 中66.5%(67.9%)
H25年度:小74.5%(72.1%) 中76.3%(70.1%)

■ **将来の夢や目標をもっている**子どもの割合が**増加しているが、全国平均より低い状況**。※()内は全国平均

H19年度:小81.5%(83.7%) 中69.2%(70.7%)
H25年度:小85.7%(87.7%) 中71.5%(73.5%)

■ **難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦している**子どもの割合が小・中学校ともに増加しているが、**全国平均より低い状況**。※()内は全国平均

H19年度:小69.8%(72.3%) 中62.7%(62.0%)
H25年度:小71.2%(75.0%) 中65.7%(66.8%)

札幌市児童生徒の実態に関する基礎調査

■ H23年度の調査では、家庭での学習時間は、小・中学校ともに、「ほとんどしない」と回答した割合が過去調査(H20年度)に比べ減少しているが、「15分以内」「ほとんどしない」と回答している子どもの割合が小学生(小5)23.9%、中学生(中2)28.4%となっている。

◆ **家庭での学習習慣や、学習意欲についての課題が見られる。**

★札幌の成果と課題★

- 読書への意欲向上に成果。一方、学習習慣の確立や、自ら学ぼうとする学習意欲の向上に課題。
- 思考力・判断力・表現力等に、問題解決的な学習等の成果も見られるが、知識・技能ほど十分に身に付いているとは言えない。
- 知識・技能は、概ね身に付いているが、小学校の教科領域の一部に継続的な課題も見られる。



- ◇「札幌の成果と課題」を踏まえ、以下の三点を重視して学校での学びを改善していく必要がある。
 - 子どもが、**学ぶことの意義や楽しさ**を感じ取り、自ら学び続けようとする**意欲をもつこと**
 - 子どもが、自ら考えたり表現したりするなどの**多様な学びを経験し、身に付けること**
 - 子どもが、学び続けるための**基礎的・基本的な知識や技能を身に付け、新たな学びに自信をもって挑戦**していけるようになること

- ◇学校での学びの質を高め、家庭とも一体となって「学ぶ力」をはぐくむことを目指して「さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プラン」を実施していく。

資料3

さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プラン

H25年度試行、H26年度以降新たな「札幌市教育振興基本計画」へ位置付け

◆分かる・できる・楽しい「授業づくり」の充実

学ぶ意欲の向上

「子どもが自ら考え、判断し、表現する学習活動」の充実

- 体験的な活動**や**言語活動**、**問題解決的な学習活動**等を取り入れた授業の工夫改善を図る。

「自分への自信をもたせるきめ細かい指導」の充実

- 児童生徒の実態に応じて、基礎的・基本的な知識及び技能の定着を図り、子どもが分かる・できる喜びを実感できるよう、**個に応じた指導の充実**を図る。
*「TTの有効活用」「定着を図る授業を位置付けた単元構成」「朝の時間を活用した学習活動」等

各学校が「学ぶ力」育成プログラムを作成し実行

- 各学校が、自校の児童生徒の「学ぶ力」の実現状況を踏まえて、指導方法等の**課題を明確化し、改善に向けたプログラムの作成、実行**に取り組む。(教育課程等への位置付け、指導方法の改善など)

教員の指導力向上に向けた施策

具体的な改善策について教育委員会が支援

札幌市教育センター研修事業

- 授業づくりに関する**研修の充実**
 - ・実効性の高い研修の充実
 - ・指導資料等の積極的な活用

札幌市教育研究推進事業

- 「分かる・できる・楽しい授業」に関する**研究の推進**
 - ・教職員の協働による授業づくりに関する実践的研究の推進
 - ・研究・研修の成果の発信

教育課程研究協議会・説明会等

- 「分かる・できる・楽しい授業」の**在り方を協議**
 - ・事例の共有
 - ・研究開発事業の成果発信等

札幌市研究開発事業

- 指導方法等の**モデル事例開発**
 - ・研究推進校によるモデル事例の開発
 - ・モデル事例の共有と活用

◆学校、家庭が一体となった「習慣づくり」「環境づくり」の推進

情報発信の充実

○家庭、地域への**情報発信を充実**

- ※家庭や地域との共通理解のもとで「学ぶ力」の育成に向けた取組を推進
- ・「**札幌市教育フォーラム**」の開催(H25.10.29)
- ・さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プランリーフレット作成・配布
- ・札幌市PTA協議会との連携
- ・広報活動の充実・工夫

「学ぶ力育成プロジェクト会議」(案)の設置

○「学ぶ力」の育成に向けた**取組を検討**

- ※会議メンバー:保護者代表、大学教授、校長、教員等
- ・学校、家庭が一体となって、子どもへ働きかける**さっぽろっ子「学びの習慣10項目」(仮)**を検討し提案、家庭向け**「家庭学習のススメ」(仮)**の提案など
- ・家庭での読書習慣づくりの促進と朝読書の充実
- ・ICTの活用、学生ボランティアの活用などの環境整備

校長会との連携強化

○**双方向**による「学ぶ力」の育成

- ※校長会との多様な機会における双方向の連携を強化
- ・「学ぶ力」の育成に向けた協議
- ・校長会への情報提供、啓発、助言
- ・さっぽろっ子「学ぶ力」の育成プランリーフレットの検討
- ・各学校の研修会等の充実

子どもの自己評価を生かした「学ぶ力」の評価と指導の改善

○教育施策や教育指導の改善に反映するため、**札幌市全体の共通指標を設定**し、子どもの学習状況等を把握するとともに、分析する。 ※各種調査結果+子どもの自己評価

(例) 「自分から進んで・・・」(学ぶ意欲)

・「学習したことを覚えている・・・」「学校の授業以外でも繰り返して学習している・・・」(基礎的・基本的な知識及び技能)

・「資料や学習したことを使って考える・・・」「いくつかの考えを比べてよりよいものを選ぶ・・・」「分かりやすく考え方を表す・・・」(思考力・判断力・表現力等)

検証改善サイクルの確立

評価

改善

検証改善

学習などについてのアンケート

実施日 月 日() 年 組 名前

◆今の自分に、最も当てはまるものに○をつけてください。

質問 1～18は、

1. 当てはまる 2. どちらかと言えば、当てはまる 3. どちらかと言えば、当てはまらない 4. 当てはまらない

質問 19は、

1. 思う 2. どちらかと言えば、そう思う 3. どちらかと言えば、そう思わない 4. 思わない

質問 20は、

1. たくさんある 2. 少しある 3. あまりない 4. ない
から選んでください。

質 問	1	2	3	4	
1	授業中、自分で疑問やめあてをもって学習に取り組もうとしている。				
2	分からないことは、自分で調べてはつきりさせようとしている。				
3	勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがよくある。				
4	意見の違う人とも、よく話し合おうとしている。				
5	今の自分にとって、どのように勉強するのがよいか分かっている。				
6	勉強で同じ間違いをくり返さないように気をつけている。				
7	新しく習ったことは、くり返し練習をしている。				
8	普段から、計画を立てて勉強している。				
9	分からないことは、そのままにせず、分かるまで努力するようにしている。				
10	意見を書くときには、その理由をはつきりさせて書くようにしている。				
11	意見を発言する前に、自分の考えがうまく伝わるように、話の内容や順序を考えている。				
12	授業中、自分の意見を進んで発言している。				
13	授業中、友達や先生の説明、意見を終わりまで聞いている。				
14	人の意見を聞いて、それを参考にして自分の考えを見直すことがよくある。				
15	習ったことや知っていることを使って、自分で考えることが大事だと思う。				
16	学校で好きな授業がある。				
17	授業中に分からないことがあったときに、友達や先生に聞くようにしている。				
18	困ったとき、悩みがあるときは、人に相談するようにしている。				
19	外国の人と交流する機会をもちたいと思う。(話をしたり、一緒に何かの活動をしたりするなど)	思う	どちらかと言えば、そう思う	どちらかと言えば、そう思わない	思わない
20	札幌には、好きな場所やものがある。(自然、建物、イベント、歴史、文化など)	たくさんある	少しある	あまりない	ない

各学校における「学ぶ力」育成プログラム

学校番号：5桁学校番号
 学校名：〇〇学校

プログラム項目名	項目内容	項目内容の具体
①「学ぶ力」に関する課題	学ぶ意欲	<p>◆「好きな授業がある」子どもが〇%、「△△の勉強が好き」という子どもが〇%、「疑問や分からないことは、自分で〇〇」という子どもが〇%。 ⇒子どもが自分で疑問や課題をもち、それを解決しようとする意欲を高める指導等に課題。</p>
	思考力・判断力・表現力 等	<p>◆「資料や学習したことを使って考えることを〇〇」「人の意見をよく聞いて、自分の考えに〇〇」という子どもの割合が〇%を上回っているが、これらに比べ、「自分の考えがうまく伝わるように〇〇」という子どもの割合は〇%と低い状況。全国学力・学習状況調査B問題で無解答率が高い。 ⇒自分の考えを人に伝わりやすく表現する学習活動に課題。</p>
	基礎的・基本的な知識及び技能	<p>◆「習ったことは、しっかり覚えることが〇〇」「家で、学校の授業内容を〇〇」との回答がいずれも〇%を上回っているが、復習をしない子どもが〇%見られている。また、「習ったことは、覚えることが〇〇」という子どもは〇%。全国学力・学習状況調査では〇〇。 ⇒定着を図る指導内容の明確化や、家庭での学習習慣の定着を図る取組に一部課題。</p>
②改善の重点	課題改善に向けて重点的に取り組むこと	<p>★〇〇の向上を図るため、〇〇の充実に取り組む。 ★〇〇の状況を改善するため、〇〇を導入する。 ※重点的な取組について、目指す子どもの姿と、そのために取り組むことを明らかにする。</p>
③改善策	<p>改善策を具体化 <input type="checkbox"/> 「子どもが自ら考え、判断し、表現する学習活動」の充実 <input checked="" type="checkbox"/> 「自分への自信をもたせるきめ細かい指導」の充実</p>	<p><input type="checkbox"/> 体験的な活動や言語活動、問題解決的な学習活動等を取り入れた授業の工夫改善 <input type="checkbox"/> …… <input checked="" type="checkbox"/> TTの有効活用 <input checked="" type="checkbox"/> 定着を図る授業を位置付けた単元構成 <input checked="" type="checkbox"/> 朝の時間を活用した学習活動 <input checked="" type="checkbox"/> …… ※「さっぽろっ子『学ぶ力』の育成プラン」の「分かる・できる・楽しい『授業づくり』の充実」を踏まえて具体化。</p>
④検証	各種調査や子どもの自己評価指標の活用	<p>○各教科等の評価規準に基づく学習状況評価結果の活用(日常のテストやノート、観察等) ○全国学力・学習状況調査や学校独自の調査結果等を活用 ○札幌市全体の共通指標(子どもの自己評価)の活用 ※「学ぶ力」を幅広い観点から評価し、成果等を検証。</p>